

## 「開発教育教員セミナー応用編」における NGO 相談員ブース出展 出張サービス実施報告書

1. 企画名：開発教育教員セミナー応用編～多文化共生を考える～
2. 実施者：  
＜主催＞独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）  
＜協力＞（特活）かながわ開発教育センター（K-DEC）
3. 日時：2017年1月7日（土）10:00～18:00
4. 場所：JICA 横浜（〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1）
5. 参加者：40名
6. 実施内容：相談対応（相談ブース出展）

JICA 横浜が開催する「開発教育教員セミナー応用編」において、国際協力、開発教育や国際理解教育に関する相談ブースを出展した。開発教育や国際理解教育の他、多文化共生やアクティブラーニングに関連する教材や資料について、参加者の教員より相談や照会を受けた。

### 7. 所感および効果：

多文化共生をテーマに、講演やワークショップが行なわれた。参加者の多くが教員であり、学校の授業の中で“多文化共生”をどのように扱うか、関心をもっている様子うかがえた。

ワークショップでは、教材制作者が参加者として加わっていたこともあり、教材の作り方について、他の参加者から多くの質問が寄せられていた。

相談ブースには小学校、中学校、高校の教員や、台湾でこれから開発教育を実践していきたいという教員が訪れ、テーマに合った教材や、教材の効果的な使い方についての質問があった。対象年齢に応じたワークショップ教材、アクティブラーニングの実践事例集、またセミナーでも取り上げた移民・難民のテーマに関する教材集について紹介した他、2～3月に当会が主催する「開発教育フォーラム」や「教材体験フェスタ」についても案内した。



## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：地球人まつり in まつやま・えひめ 2017 における相談対応  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：竹内よし子、高山莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 29 年 1 月 15 日（日）13:00~17:00
4. 場所：松山市総合コミュニティセンター（愛媛県松山市湊町 7 丁目 5 番地）
5. 参加者：一般市民
6. 実施報告：愛媛県下で最大の国際交流イベントにおいて、相談員ブースを出展した。本制度の活用促進に向けて、ポスター、チラシの展示と説明、冊子「四国・国際協力団体と ODA」の配布、グローバル・ローカルかるたの展示と説明等による情報発信を行った。さらに、相談対応コーナーでは個別の相談対応を行い、国際協力活動や開発教育に関心を持つ参加者（高校生、大学生、教員、NGO・NPO 関係者、県庁職員、海外青年協力隊 OB など）を対象に約 20 件の相談対応、情報提供を行った。なお、今回は不特定多数の市民を対象としたイベントでの相談対応、情報発信の場であったことから、相談者の所属までは把握することができなかつたため「その他」として分類した。

### [主な対応内容]

- ① 相談者 幼稚園教員  
相談内容 開発教育に関心を持っているが、具体的にどのような活動ができるか知りたい。NGO 相談員の出張サービスも実施可能か。  
対応 グローバル・ローカルかるたの紹介を行うとともに、小学校で実施している国際理解教育の内容や、ユネスコスクールに認定されている徳島の幼児園の取り組みについて情報提供を行った。また、幼児やその保護者を対象とした出張サービス実施も可能であることを伝え、今後の企画に向けて引き続き検討していくこととなった。
- ② 相談者 高校生  
相談内容 スーパーグローバルハイスクールの SGH 部に所属しており、国際理解・フェアトレードに関心を持っている。後日、他校の高校生と合同で勉強会を行いたいので講師を依頼したい。  
対応 日程調整を行い、フェアトレードタウンに認定されている逗子市の取り組みや、四国でのフェアトレードに関する活動について情報提供を行うとともに、今後、愛媛県内の高校生でどのような活動ができるか意見交換を行うこととした。

7. 別添（写真）



相談対応の様子



グローバル・ローカルかるたの紹介

平成 29年 1月23日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「玖珠美山高校での国際協力についての講演会及び交流」

※出張形態:講演

2. 出張者:坂西 卓郎((公財)PHD協会職員)

3. 実施日:平成29年1月16日(月)15:10~16:00

4. 場所:大分県玖珠美山高等学校  
(大分県玖珠郡玖珠町大字帆足 160)

5. 対象者 :玖珠美山高等学校 地域産業科1年25名及び教員

6. 実施報告:

玖珠美山高等学校地域産業科1年を対象に「農業と環境」というテーマで講演を行った。同高校では年間を通じて「農業と環境」について学んでおり、今回は国際社会での農業と環境について、NGO 相談員として講演を行うこととなった。

講演内容としてはインドネシアのプランテーションにおける煙害を取り上げて講義を行った。インドネシアでは大規模プランテーションにより広範囲において火災が発生しており、大きな環境問題となっており、現地でも健康被害や農業への悪影響が出ている事例を紹介した。またプランテーションによって栽培されるパームオイルは日本にもスナック菓子やカップラーメンの原料としても入ってきており、私たちの生活とも関連があることを紹介した。

今回の目的は「将来、農業を志す高校生が、発展途上国の農業の現状と課題を知り、日本の農業の意義と、農業を通じた国際協力の可能性について学び、国際協力活動への理解と参加につなげる」というものであったが、本校の生徒は大変意識が高く、「農業人口の減少に危機を感じて農業を志した」など農業の意義については十分に理解していた。一方、本講義を通じて「農業と国際協力が繋がっていることを知ることができた」というコメントもあり、上記目的を十分に達成できたと感じた。先生方も「大分の真ん中に来てくれる NGO や海外の人は少ないので貴重な機会だった。時間が少なくてもよかったなかつた」とコメントを残してくれ、有意義な出張サービスになったと感じた。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を3枚添付



①NGO 相談員制度及び外務省と NGO の連携について説明している様子



②インドネシアの煙害について講義をしている様子



③講義終了後学生たちとの集合写真

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

3. 企画名：講演会 「メコン地域における人身売買・人身取引と NGO」
2. 実施者：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 松本謡子
3. 日時：平成 29 年 1 月 24 日（火）10:30-12:00
4. 場所：千葉大学 西千葉キャンパス 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33
5. 参加者：千葉大学法政経学部 2~4 年生 180 名、教諭 2 名
6. 実施報告：

NGO 相談員として、3 部構成（①人身取引の定義と現状、②人身取引における 4 つの誤解とアドボカシー、③意見交換、質疑応答）で授業を実施した。人身取引の定義と現状では配布資料として作成した「人身取引 現代の奴隷制を知ろう」や動画を活用し、議定書の定義や世界中に広がる現状、また、被害者の証言を通して深刻な人権侵害であることを紹介した。また、米 국무省から発表される「人身売買報告書」を元に日本の現状を紹介し、議定書未締結である課題等を提示した。さらに人身取引における 4 つの課題では、被害者は、女性と子どもだけなのか？性的搾取の問題が中心なのか？大きな犯罪組織が、いつも背後にあるのか？救出されたらそれで終了なのか？という点について、ワールド・ビジョン・ジャパンが 2016 年まで取り組んできた End Trafficking in Persons Program (ETIP) の実証に基づいて紹介した。問題解決のために取り組むアドボカシーの活動にも触れ、日本政府に対して行っている政策提言について紹介した。

意見交換では人身取引のない世界を作るために誰が何をすべきか、ワークシートを使用して意見を出し合い、「国家として人身取引を取り締まる規制を強化すべき」「国際社会全体が安価な労働力や商品に依存する傾向を見直すべき」「メディアで取り上げ、SNS を活用した情報の拡散が啓発や予防につながる」「企業が利益追求ばかりでなく人権を尊重すべき」等の声が挙げられた。

最後に質疑応答では国家を越えた枠組みでの対策について、日本が議定書未締結である原因について、人身取引課題が日本社会の中で知られていない原因について等の質問が寄せられた。

### 7. 所感：

授業後に「大変興味深かった」との感想が寄せられた。法律、政治、経済を学ぶ大学生の視点から人身取引の課題の現状に意見を寄せてもらうことができ、また「アジア政治」という科目の中でこの課題を盛り込んでもらうことに意義を感じた。学生からの鋭い視点や本質を突いた質問の数々に大変刺激を受け、勉強になった。また、担当教諭からの ASEAN に関する指摘にも、今後の活動に向けての貴重なヒントを得ることができた。

### 8. 別添（写真）授業の様子



## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名:北九州市の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
2. 実施者:(特活)NGO 福岡ネットワーク
3. 日時:平成 29 年 1 月 24 日(火)13 時 00 分~18 時 00 分
4. 場所:JICA デスク北九州(北九州市八幡西区黒崎 3-15-3 コムシティ 3 階) など
5. 実施報告:

本企画は、NGO 相談員の認知度向上と、NGO 相談員と国際協力機関等との協働の機会を模索することを目的に実施した。具体的には、①地域の国際協力の状況ヒアリング②NGO 相談員事業の紹介③NGO 相談員受託団体の活動紹介④国際協力機関等と NGO 相談員受託団体との連携可能性の検討、以上 4 点に分けられる。国際協力やボランティア等に関わる機関を訪問し、NGO 相談員の広報と打合せを行った。

今回の出張サービスの最大の収穫は、JICA デスク北九州(国際協力推進員)との協議であった。福岡県には福岡市と北九州市のそれぞれに推進員が配置されているが、地理的な問題があり北九州の推進員との連携はこれまで十分に取組みられてこなかった。そこで今回は北九州の NGO や国際協力の状況をまず伺うことで、「連携ありき」ではなく、北九州という地域の実態に合わせて NGO 相談員との連携が可能性としてあり得るのか?を軸に話し合うことに努めた。

今回の話し合いの中で分かったことは、地域の団体の実情や要望を踏まえないまま連携を推し進めることはできないということである。同じ県内でも、NGO の数、運営メンバーの年齢、運営方針(現状規模の維持、規模拡大志向など)に違いがあるため、片方の都合をもとにした連携は団体への事業負荷や団体間の関係悪化を招く恐れがある。特に、自発性による運営によって成り立つ NGO にとっては強制的な連携は良い成果を生み出さないことが多い。団体の活動内容や成長方針などと照らし合い連携にのぞむこと、また将来的な連携を見据えて団体との定期的なコミュニケーションを図り、団体の発展を目指した支援に取り組んでいくことが重要であると痛感した。

### 6. 別添(写真)



北九州国際交流協会



推進員との協議